

クロマツの苗を植える参加者。12日、鳥取市福部町湯山の「海潮音の森」



「海潮音の森」初の保全活動

本紙とNCN社員や家族ら

県産クロマツ270本植栽

「大事に育てていく」

新日本海新聞社と日本海ケールネットワークは12日、鳥取市福部町湯山の「海潮音の森」で初めての森林保全活動を行った。両社社員や家族ら約80人が参加し、松くい虫被害に強い県産クロマツ約270本の植栽に汗を流した。

両社は今年1月から5年間にわたり、鳥取マラソンのスタート地点となる対象面積0・72畝の同地で、年2回クロマツ植栽や下刈り、つる切り、除伐などの森林保全活動を実施する。

植栽作業は、オンラインで行われる鳥取マラソンの開催初日に合わせて行われた。吉岡徹社長が「海潮音の森が日本の潮騒を聞きながらマラソンが楽しめるゲートウエーになるよう、大事に育てていきたい」とあいさつ。早速、社員らは下草を刈った砂地に約30センチの穴を掘り、防砂林として成長する苗木を植えた。

家族と一緒に参加した賀露小4年の福安いち佳さん(10)は「大人になって砂丘のクロマツを見た時に、みんなで植えた今日のことを思い返してみたいな」と笑顔で話した。(三野夏美)